

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

185号 2018年1月28日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「キリストが献げてくださった」

——マタイによる福音書第2章10～11節——

牧師 渡邊 義彦



学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。
(新共同訳聖書)

東からはるばるキリストのもとを訪ねてくる博士たちは、子供たちのクリスマスページェントでは、人気の役の一つです。わたしたちの教会の教会学校や、幼稚園のページェントでは、長いマントをまとうて、学者らしい帽子をかぶり、堂々と博士たちが登場します。救い主誕生の星を発見し、はるばる東からベツレヘムまでやって来て、恭しく、幼子キリストに持ち来た宝を献げます。東からやって来た博士たちは、聖書には占星術の学者たちと記されています。星を観察研究して自分たちの国や世界の行く末を星の動きによって見定めることを、自分たちの務めとしていた人々です。聖書の舞台であるイスラエル地方から東に位置して、占星術という当時の最先端の研究を行う文明を有するような大国があるのは、チグリス・ユーフラテスの川沿いに発展した国々、メソポタミヤ文明



を担う国々や、アラビアの国々が考えられます。ページェントに登場する博士たちも、正確な時代考証を経ているわけではありませんが、主イエスの父となる、ユダヤ人であるヨセフや、母マリア、また博士たちと同じように救い主誕生の知らせに飼い葉桶のもとを訪ねて来る羊飼いたち、彼らもユダヤ人でしたが、彼らとは明らかに違った衣装で博士たちは登場します。

彼らが、はるばる東から救い主のもとに持ち来た宝は、黄金、乳香、没薬です。黄金は当然として、乳香、没薬、いずれもが貴重で高価なものです。これらのものを携えて来ることができるほどに、彼らは身分の高い人々であったことがわかります。ユダヤを支配している王にも動じることなく謁見したように聖書からも読むことができます。彼らは、西の空に輝く星に導かれて、はるか東の国からユダヤの地へと旅をしました。旅する間、星は彼らを導きました。その旅は期待と喜びに満ちてはやる気持ちを抑えるのももどかしい旅であったのではないかと想像します。

しかし、エルサレムで彼らは星を見失います。星は輝きを失い町の喧騒に飲み込まれて

しまします。彼らは東の地で発見した大きく輝く星は新しい王誕生の知らせであることを既に理解していましたから、新しい王は、ユダヤを治める王の住まい、王宮におられるのではないかと考え、訪ねました。ところが、星が約束していたはずの新しい王は王宮には誕生していませんでした。むしろ、王宮の人々は新しい王誕生の知らせを喜ぶのではなく、却って知らせを不吉なものとして不安を抱きます。ここに救い主の誕生の知らせを喜び受入れる人たちの陣営と、同じ知らせを疑い、不安に感じ、恐れる人々の陣営がはっきりとします。ヘロデ王も、王の庇護のもとで地位を得ている官僚たちも、新しい王誕生の知らせを喜ぶのではなく、新しい王が登場することで自分たちの地位を失うことを恐れました。

この直後に新しく生まれたばかりの王の命が狙われることになることは、幼子のこれからの人生が決定していることを明らかにしています。クリスマスに生まれたお方は、その最後を十字架に殺され死を遂げることになるからです。この方がまだ幼子であったとき、クリスマスの夜には、この方が十字架に死なれて救い主となられるとは、まだ誰も知らないことです。しかし、ヘロデ王が幼子の命を狙おうとしていることに、既に、クリスマスに、父ヨセフ、母マリアのもとに生まれた幼子の十字架への道が暗示されています。博士たちがはるばる東から持ち来た三つの宝のうち、乳香、没薬は、いずれもが死者の埋葬にも用いるものです。彼らの献げ物もクリスマスに生まれ来たお方が救い主であられることを明らかになさるため、十字架を負われることになることと示唆しています。

クリスマスの言葉の由来は、キリストと祭、礼拝をつなげた言葉ですから、このクリスマスときにキリストへと礼拝を献げることは相応しいことです。そしてさらに、わたしたちには、立ち止まりなお思い巡すべきことがあります。東からやって来た博士たちが礼拝を献げる前に、羊飼いたちや、そして、わたしたちが礼拝を献げる前に、キリスト御自身

が、自らを献げてくださったことを覚えなくてはなりません。クリスマスの夜、神は御自ら、わたしたち人間に、神に対して反抗して止まないようなわたしたちのために、御自身を与え尽くし献げ尽くすため、赤子となって生まれてくださったことをです。わたしたちの献げ物に先立って、キリストが自らを献げてくださいます。わたしたちの献身に先立って、キリストが献身されます。クリスマスの夜に、まだ誰も、この方が救い主として十字架を負われることを知らない中で、神が身を献げられ献身なさるのです。

クリスマスの夜が、明るく喜びであるのは、この夜に本当の暖かさがあるのは、この夜、あなたのために、わたしを与える、と神が宣言してくださったからです。どんなに世界に闇が迫ろうとも、どんなに苦しみや悲しみが世界に残り続けようとも、このクリスマスの夜に灯された光は、クリスマスの夜に呼び覚まされた喜びは、決して掻き消されることも失われることもありません。わたしたちの奥深い存在を暖めることのできる暖かさは失われないのです。キリストがわたしたちのために命を献げてくださった、キリストがわたしたちの救い主でいてくださる、このことが本当の喜び、本当の希望です。



集会出席統計（月平均人数）

	2017年	
	11月	12月
主日礼拝	89.8	80.2
聖書と祈り会	5	18
教会学校*	105.8	116.6

* 保護者、教師を含む

(第1主日開催)	11月5日	12月3日
聖餐夕礼拝	10	12

☆☆☆教会の行事☆☆☆

◆いままであったこと

- ◇11月26日(日) 教会学校、収穫感謝日礼拝
- ◇12月3日(日) ～待降節(アドベント)に入る
- ◇12月6日(水) 13:30～いずみ会、新生会合同アドベントの集い
- ◇12月8日(金) 10:00～幼稚園保護者のためのクリスマス礼拝
- ◇12月14日(木) 10:00～幼稚園クリスマス礼拝
- ◇12月24日(日) 10:30～降誕祭(クリスマス)礼拝、12:30～愛餐会↓
15:30～教会学校クリスマス礼拝
ページェントリハーサル風景↓



18:00～聖夜礼拝 ↓



キャンドルを配る



終了後ロビーでココアのサービス



- ◇12月31日(日) 礼拝後大掃除 みんなでエアコンや窓などの掃除→
- ◇1月7日(日) 礼拝後、集会室で新年のティータイムが開かれた

◆これからの予定

- ◇2月14日(水) 灰の水曜日、受難節に入る
- ◇3月25日(日) 棕櫚の主日、受難週(レント)に入る
- ◇3月29日(木) 洗足木曜日
- ◇3月30日(金) 受難日
- ◇4月1日(日) 復活祭(イースター)礼拝

「東京神学大学後援会献金」

赤木 康子

「各会は今」というコラムへの執筆を依頼されていてささか当惑しています。東神大後援会献金の係が「会」なのかな？

献金が始まった 1982 年から数えると 36 年、「あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、私の天の父はそれをかなえてくださる」(マタイ 18:9)とのみ言葉に励まされ、棟居湘子さんと二人で、東神大のお役に立つならと係りを続けてきました。幸い、柿ノ木坂教会では、会員の協力によって、毎年目標額を達成してまいりました。

昔、林検治さんという迫力に満ちた老・超・長老がおられました。だぶだぶになってしまった靴をひきずりながら登場し、眼光鋭く、信仰を秘めて、天を仰いで意見を述べておられました。1981 年のある主日、「教会で東神大の創立記念日献金を始めたいと思うと。そこで世話人が必要じゃが、あんたと湘子さんに頼みたいんじゃ。子供達もおおきくなったからな。」とご指名にあずかりました。否応なく引き受け、活動を始めましたが、その意義の理解は後まわしという奇妙な出発でありました。

3 年目が終わった時、林さんから次のはがきをいただきました。

「聖名を賛美いたします。(ご報告深謝) 東神大創立記念日献金は貴姉のご協力により第 1 回('82)は 24 名 4 万 3 千円、第 2 回('83)は 42 名 7 万 5 千円、第 3 回('84)は 63 名 9 万 8 千円という好成績を収めましたこと、まことにありがたく、貴姉のご苦勞に対し心から感謝いたします。もともとこの企画は全国後援会結成の際全国委員会の席上私が提案いたしました、学校側は教団の神学校日献金に気兼ねして実現しなかったの

で、私は柿ノ木坂教会をテストケースとして一昨年から実施しましたところ、このように祝福されて、今年の全国委員会は漸く取上げ、学校当局も初めて、学報に「5 月 19 日は当学創立記念日につきご加祈願います」と公表するに至り、定着の緒につきました。柿ノ木坂教会は幸いにもパイオニア的役割を果たし感謝です。」('84 年 6 月 5 日)

東京神学大学の存在の意義について、近藤勝彦先生が学長になられた頃、教団新報 2009 年 4 月 25 日版『人一人ひととき』欄で次のように述べておられます。

「日本におけるプロテスタント伝道は逆風の中にある。近代科学・技術偏重の中で人間は救いを求めている。十字架につけられし主イエス・キリストにおける神の救済の御業、ここを深く掘り下げ理解して、一現代に生きる人の心に届く新鮮な言葉一で伝道することが求められている。この教会の業を担うために東京神学大学はある。・・・」私はこの文章を反芻しつつ、東神大の存在に感謝し、その大学の存続のために働きたいと願っています。

引用続きで恐縮ながら、2007 年の教会員への献金アピールの文章の一部を紹介します。柿ノ木坂教会前牧師の勝田英嗣先生によるものです。これによって東神大と日本基督教団の関係、両者をめぐる各教会の立場を理解できるでしょう。多少古いものですが、今も状況はあまり変わっていないと思います。

「本来教団立神学校は、教団が各教会から毎年教会の規模に比例した額を拠出してもらい、交付してくれないと困るわけです。日本基督教団という教会が戦時中に急に

来て、合同教会としてしっかりとした体制を作るのに時間がかかり、教団立神学校を支えるようなところまでなかなかいかなかった。戦後、各教会は経常経費の約1%を教団立神学校に捧げてほしいという教団議長からの要請が出されるようになった。それが軌道に乗ればよかったが、軌道に乗る前に日本基督教団の紛争が起こり、東京神学大学でも紛争が起こり、東神大に対する風当たりが悪くなってしまった。そのために教団が募金をして東神大を支えることは出来なくなってしまった。そこで有志の教会による後援活動に頼らざるをえなくなった。柿ノ木坂教会も現任牧師赴任以前、26年以上前に後援活動に参加する決断をしたのだと思う。

現在はそのことを継承して、全国後援推進委員会で目標額が設定され、東京地区も応分の目標額をたてて募金活動をしているわけです。各教会の分担を委員たちが判断する。柿ノ木坂教会の分担目標額(教会賛助献金)を委員の太田(龍夫)さんが出してくださるので、それを長老会で検討し、自由な献金(後援会献金)と共にお捧げしているわけです。対外献金の中で大変比率が大きいのですが、これだけやらないと東神大の財政を支えられないのが現実です。いつか教団立の神学校として本来の形を取り戻すまで、これは続けざるを得ないのではないか。」(括弧筆者)

さて、ここで、東京神学大学に献金を捧げることの信仰上の意義について考えましょう。2009年、渡邊義彦先生を柿ノ木坂教会の主任担任教師として招聘しました。牧師は同年の東神大献金アピールの中で述べておられます。

「わたしたちの教会が東京神学大学を後援しますのは、自らの教会のこのみならず、全国に派遣されて、それぞれの地にて健全な教会建設、力強い伝道のために献身する伝道者、牧者を養成しますことに祈りをもって参加するためです。神学大学の後援活

動に参加することで、わたしたちの教会は、全国の教会の建設、伝道に参加します。

日本のキリスト者が人口比1パーセントを切って久しいと言われる中で、教会は、今こそ福音を伝道してキリスト者を生み、教会の建設をさらに続けてゆかなくてはなりません。伝道と教会建設に、伝道者、牧者を欠くことができないことは、わたしたちが強く実感しているところであります。

教会は、伝道して求道者を招き集め、受洗者を生み出し、伝道献身志願者を育て、神学大学へと派遣します。伝道者養成機関である神学大学は、伝道献身者たちを訓練し、教会に仕える伝道者、牧者として育て、再び教会に派遣します。この業は、伝道者養成機関である神学校だけではなく、教会が祈りをもって参加することではじめて成り立つ業です。

神の召しを受けて、伝道献身者は献身します。同じく、神の召しを受けて、わたしたちは伝道献身者養成の働きを支えることにおいて献身します。献身の志をもって東京神学大学を支えてまいりましょう。献金目標達成のみならず、伝道献身者がさらに起こされるため祈りをひとつにしていましょ。

東神大後援会献金の係を、若かった二人が、あまり訳も分からず引き受けてから今日まで、ここに紹介したアピールの言葉などに接するうちに、徐々に確信をもって働くようになりました。

神学校日献金は教団を通じて各神学校に送られています。別途、柿ノ木坂教会が、東神大に特別に献金するのはなぜでしょうか。『柿ノ木坂教会50年記念誌』、1986年～2017年『定期教会総会議案報告』を紐解いてみました。創立以来現在までに、柿ノ木坂教会で奉仕、伝道してくださった牧師、伝道師、神学生総数30名のうち、東神大設立以前に青山学院神学部を卒業された創立者の小川貞昭先生、記録が見当たらないた

め出身神学校が不明の初期の伝道師 3 名、日本聖書神学校卒の伝道師 1 名の計 5 名を除き、25 名という圧倒的多数が東神大の出身でおられます。柿ノ木坂教会は長年にわたり、これらの先生による神の言葉に養われ、歩んできたのです。2009 年、教会は無牧の 1 年を過ごしました。この間、代務牧師として、あるいは、神学生の立場で教会を担ってくださったのも、1 年 54 回のうち 44 回に及ぶ主日礼拝説教を引き受けてくださったのも、牧師招聘のために助力してくださったのも、東神大教授を含む東神大卒の教職と神学生でありました。東神大無く

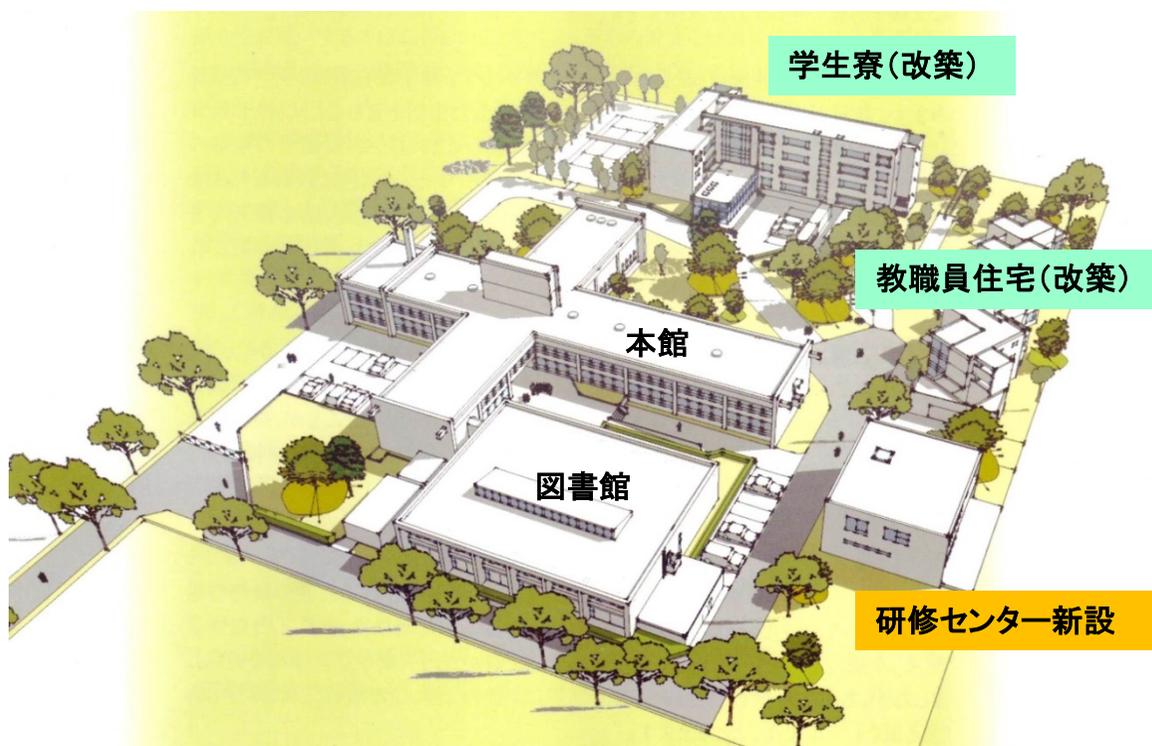
して柿ノ木坂教会はないと言っても過言ではありません。

このように柿ノ木坂教会は恵まれた歴史を歩んできました。しかし、日本には、現在、無牧の教会や伝道所が多々あると聞いております。東京神学大学が十分な数の伝道献身者を育て、牧師を必要とする教会に派遣することができますよう、柿ノ木坂教会から献身者が生まれますよう祈りながら、これからも御用にあたりたいと思います。

東京神学大学キャンパス整備献金もよろしくお願いします。

東京神学大学整備イメージ図

研修センター 新築、1966, 68 年竣工の教職員住と 1966 年竣工の学生寮を改築



キャンパスイメージ図 (東神大募金趣意書を元に作成しました)

「神ともにいまして」

横井 真紀

「神がなされることは皆その時にかなって美しい」

(伝道の書 3 章 11 節・1955 年改訳聖書)

私が母に連れられて柿ノ木坂教会の門をくぐったのは中学 1 年生の時。東洋英和女学院の中等部に合格し「母教会を決めなさい」と学校から言われたからでした。

両親はクリスチャンではありませんので、東洋英和を受験したのも自分自身の意思ではなく、熱心なクリスチャンだった祖母や牧師だった伯父の勧めだったと記憶しています。

当時の J C は、自分の上にも下にも多くのメンバーがいて、修養会などもありました。J C の礼拝内では奏楽も自分たちで運営していましたし、順番で自分たちの証なども行い、意欲的に活動していたと思います。

私自身はその中で、そう熱心でもなく、そうは言っても離れていくという感じでもなく「学校で毎週日曜日に教会へ出席するよう言われているので通っている」という感じでした。ただ、今思うと不思議なのは何度か引越しがあり、柿ノ木坂教会が近所ではなくなり、遠ざかる機会はあったのですが、ずっと迷わず柿ノ木坂教会に通い続けていたことです。

大学時代などは大田区・久が原教会の真裏に住んでいて、柿ノ木坂の礼拝に出席出来ない時だけ久が原教会の夕礼に出ていたのですが、久が原教会の当時の牧師先生に道でばったり会うと気まずい思いはあっても転会しようとは思いませんでした。まあ、幼くて転会ということをお願いできなかっただけということもありますが・・・。

大学もミッション大学の立教に進学しました。意識してミッション・スクールを選んだということではなく、推薦で家から通える大学を選んだ結果です。大学に入り、何か部活動をと心躍らせていましたが、大学の門をくぐった瞬間に東洋英和の先輩に「貴女が入る

部はもう決まっているのよ」とお茶 2 杯ご馳走になり、半ば強制的に合唱団に入部させられました。その頃はそんな言葉ありませんでしたが、今にしてみると「パワハラ」です。

その合唱団(=立教大学グリークラブ)は部員数 150 名あまり。年間いくつもの決められた演奏会の為に、昼休み、放課後と週 4~5 回体育会系並みの練習があって、多くのメンバーがハードな活動を続けられず辞める中、4 年間最後まで在籍しました。自ら入ったクラブではありませんでしたが、面白かった! 過ごした時間、出会った仲間は昨年末も会う程、今も続くかけがえのない宝物になりました。たくさんの練習、演奏会に思い出があり、そしてそのどの演奏会も最後に歌うのは「神ともにいまして」でした。

「神ともにいまして ゆく道を守り、あめの御糧もて、力をあたえませ」(讃美歌 405 番)。

受洗は大学 3 年の時に決心しました。神さまがいつも共にいて下さると信じる事が出来たからです。

中学 1 年の時、何もわからず柿ノ木坂教会の門をくぐり、通い続けて 40 年あまり。今になって振り返ればすべて整えられ、与えられてきたのだと思います。

冒頭の聖句「神のなされることは皆その時にかなって美しい」のあとには「しかし人は神のなされるわざを初めから終わりまで見きわめることはできない」と続きます。

教会の枝に連なっている悲しいことが起きない、全て順風満帆な道ということではないことはもうわかっています。何故? ということが起きたりします。ただその時に、まだまだそれがどういうことかわからなくても、神様は全てよいように整えて下さる、ということは今信じる事が出来ます。これからも神がともにいて下さることを思い、光の子らしく歩んでいきたいと思います。

今月のメッセージ

—ホームページ巻頭言 から—

東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。

(新共同訳聖書・マタイによる福音書第2章9～10節)

昨年12月のはじまりから掲げられてきたクリスマスリースや、諸教会、諸学校、団体、事業、また関係の兄弟姉妹方から送ってもらったクリスマスカードなどの掲示が、新年1月を迎えてなお1週間、片づけられることなく続けて会堂に掲げられてありました。クリスマスの喜びが続いていることを忘れないためにです。

そのように新年を迎えても飾られていたものの中に、小さなクリップがありました。この小さなクリップは、アフリカ・ケニアで働く姉妹が教会に贈ってくれたものです。木の細い枝やトウモロコシの皮などで作られています。飼いやつに寝ている幼子、父と母が、小さな小屋の中にいます。広く開け放たれた戸口の前には、羊飼いたちが羊たちと、東からはるばるやって来た博士たちが持ちきた宝物を持って、跪き、頭を垂れて、飼いやつを見つめて、救い主としてお生まれになった幼子に礼拝をささげています。

その人たちの姿は、どの人も、アフリカの人たちの姿をしていて、欧米で手に入るクリップとは違って独特の素朴さを持っています。細い枝やトウモロコシの皮、針金などの細い線で、あのアフリカの大地にしなやかに、たくましく生きる人々の姿を生き生きと写し取っているクリップです。彼の地に根差したクリスマスは、

ホームページには多くの情報が掲載されています。

ぜひご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com>

このようにあるのだらうと想像を豊かにします。

新年を迎えてもなおクリスマスの飾り続けるのは、クリスマスをお忘れないためのみならず、このクリスマスに飼いやつにお生まれになったお方が十字架への道を歩まれることに繋がってゆくことを覚えるためです。教会は、クリスマスの次に、2月からの受難節を過ごし、棕櫚の主日、受難週、聖金曜日、そして復活日、イースターを4月に迎えます。御子の御降誕のクリスマス、主イエス・キリストの御苦しみの極みである十字架、主の驚くべき復活、イースターが途切れることなく繋がって祝われてゆきます。

12月25日が過ぎると一晩のうちにショーウィンドウのクリスマスツリーが門松に据え変えられてしまう中で、年を越してもなおクリスマスの喜びが続いていることを忘れないでいる人たちは、この国ではわずかな人たちでしかないでしょう。しかし、あのアフリカのクリップが教えてくれるように、この国に、それでもなお、キリストの福音がしっかりと伝えられ、キリストの信仰がしっかりと根付くことがどうしても必要なのです。たとえ一人の人であろうとも、その人がクリスマスのほんとうの喜びを、十字架の深い喜びを、復活の広く高い喜びを知ってくれるなら、それは天に大きな喜びがあることをわたしたちも信じています。

主の助けをいただいて、この年も日本伝道のため力を尽してまいりたい、そう願います。

(牧師 渡邊 義彦)

——編集後記——

- ・クリスマスに一人の受洗者が与えられました。嬉しいことです。次号に紹介の記事を書いていただく予定です。
- ・昨年は降誕祭礼拝、CSのクリスマス、聖夜礼拝が同じ日に行われる暦みで、行事の多い1日でしたが、恵みに溢れる一日でもありました。行事欄をご覧ください。
- ・教会の大切な働きのひとつである、東京神学大学を支えるお働きについて、赤木長老に書いていただきました。
- ・教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。
(編集委員長 井澤浩一)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分
日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂 1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規